

普及活動情勢報告（令和元年11月分）

中央西農業振興センター高吾農業改良普及所

施設ニラ、冬支度が始まっています



目慣らしを行う生産者

11月1日、コスモスニラ生産部の月例会が行われ、生産者13名の出席がありました。

目慣らし会では、お互いの品質について「今年はすじが細いニラが多い」といった意見交換をしました。普及所からは、今後の栽培管理、病虫害対策や電照の注意点についての説明を行いました。株養成が十分でないほ場が多いため、早刈りや蒸し込みをせずに、厳寒期に向けてしっかりと株を充実させるのが重要であることが理解されました。

高単価である厳寒期の収量・品質向上を目指して、今後も栽培管理指導を行っていきます。

促成高糖度トマトの出荷始まる。



トマトの出荷状況

促成高糖度トマトの出荷が10月30日より始まりしました。昨年と比べ2週間早く、糖度も7.2度と予定した糖度帯での出荷となっています。各生産農家の着果状況も安定しており、今園芸年度は、市場販売が期待できます。

高吾農業改良普及所では、昨年、年内に問題となった灰色かび病の発生を抑えるため、環境制御による温度・湿度対策のモデルを示し、発生要因である早朝時の結露やハウス開閉後の湿度対策を図るよう働きかけました。

今後は生産部会員への個別巡回や生産部会の会合などで病気の発生を把握し助言指導を働きかけると共に、安定生産に向け環境制御技術を取り入れた指導を図っていきます。

日高村集落営農先進地視察研修



組織の状況聞き取りとブランド米出荷見学

10月23～24日、日高村（農）沖名営農組合と農業委員会合わせて15名が合同で島根県に集落営農視察研修に行きました。

奥出雲町（農）三森原では6法人の広域連携による農地の維持、米や味噌の販売など多角的な経営、雲南市（農）槻之屋ヒーリングでは若者の雇用体制や直販所（農家レストラン等）への園芸品販売等を学びました。参加者からは多角的経営や担い手確保、地域に貢献する活動を参考にしたいとの感想が聞かれました。普及所はこれからも集落営農組織活動を支援していきます。

ピーマンの先進地視察研修



情報収集する生産者

11月5日、高知県担い手育成センターへの視察研修を開催し、生産者9名が参加しました。

農業改良普及所は、視察先との日程調整や研修内容の依頼等の事前準備を行いました。

生産者からは「誘引栽培に取り組んでみたい」「低い位置での誘引は楽そうだ」等の前向きな意見があり、積極的に情報収集を行っていました。

今後も、視察研修や栽培講習会等を開催し、生産者の収量向上につなげていきます。